

第19回大会発表概要：ステーションナリー研究部会

2018年9月15日(土) 金沢商工会議所会館

2階研修室1 第二部 (2) 14:25 ~ 15:15

1. 発表プログラム

コーディネーター：藤木 武史 (部会長/コクヨ株式会社)

研究発表：「10年後の文房具とワークスタイル～ペーパーレスで予想される働きかたを文房具から予測する～」

発表者：藤木 武史 (コクヨ株式会社)

発表者：田島 宏 (ぺんてる株式会社)

発表者：高畑 正幸 (文具王・個人会員)

2. 発表の概要

本発表は2017年から研究活動を始めたステーションナリー研究部会の第二回目の学会発表となる。

まずは藤木氏より2017年発表内容の振り返りと、前回に引き続き外部環境の整理とアップデートされた内容が示された後今回に引き継がれた活動内容への背景と具体的な手法の報告がなされた。



前はグラフィックデザイナー、アニメーション背景画家など、1970年代に活動をはじめたベテラン層の、IT化への変化に挑戦対応しながら、現在ではデジタルツールを使いこなして創造活動を続け、今なお活躍されている仕事場に訪問しツールの変化や今後の働き方を検証してきた。

共通することは、常に新しいツールや価値観を能動的に受け入れ果敢にワークプロセスの変化に対応してきたことである。一方で個人のライフワークではアナログ嗜好の趣味に加え、人の集まる場を意識的に大切にしている傾向が伺えた。

では学生時代からインターネットやPCのある生活が当たり前の中で育って来た、いわゆる「デジタルネイティブ」と言われ始めた世代の働き方はどうなのだろうか？

そこで今回は、2000年以降仕事を始めたワーカーの働く場、ツール、価値観を中心に調査及び報告を行った。

3. 「デジタルネイティブ」と「働き方改革」

今回は「Google Japan 本社」、「デジタル漫画家」、「Yahoo!

本社」を訪れ視察を行い、特に Yahoo! では直接デジタルネイティブ層 (20代後半～30代) のワーカーに、現在の仕事場での振舞いや業務プロセス、ツール、生活ルールなどヒアリングをおこなった。

この視察とヒアリングを通じて、「変化」を知ることは勿論の事ながら変化に対応しながら働く事への「前向きな価値観」と「働き方改革」の一端が垣間見える調査となった。

3.1 グーグル合同会社本社

訪問日時：2018年3月6日(火) 15:30-17:00

訪問先：グーグル合同会社 Google Marketing Team

★現在の職場の形態 (比率や業務内容)

- ・ 固定席 (自席) はあるが、自席で仕事をしなくても良い (フリーアドレスは紆余曲折を経て非採用)
- ・ 顔を合わせる機会は多く「1 on 1」ミーティングなどコミュニケーションは積極的に円滑に行われている
- ・ 必要な際には「チャット」で相手を確認しコミュニケーションをはかる文化が根付いている
- ・ 会議室のシステムは自宅、他フロアはもちろん、外出先 (海外含む) からもアクセス可能
- ・ Google カレンダーで公私の予定を入れてスケジュールを管理、全社員で共有することでプライベートを特に尊重する文化がある (18時以降はプライベートな時間)

★Y氏の一日

5:00 ~ 6:00 起床 (1時間) 仕事と子供の世話

9:30 会社へ

※社内ミーティングが無い日はそのまま自宅で仕事

10:00 ~ 18:00 出勤 会議 30分×5 - 6本

※会議は最大 30分 / 1案件

★手書きの比重やその価値

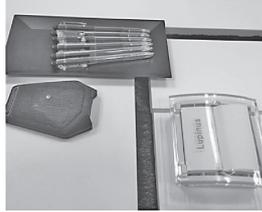
- ・ 会議で紙資料を準備や使用することは無く、完全なペーパーレスが浸透。外部提案書程度が紙
- ・ 但し会議室、ミーティングエリアにはホワイトボード以外に「付箋とボールペン」が必ずあり議論を行いながら書くことで頭を整理することが多い

★未来への考察 (あなたの仕事はどうなっているか?)

- ・ 10年後、20年後は自分たちのやっている仕事の8割をAIがとって代わっているのが自分の今の仕事はなくなっ

ている

- ・クリエイティビティーの中からデータアナリストのワークがなくなってくるが、それは世の中（未来）にとって素敵なこと、良いことだと思う。



3.2 漫画家（とよだたつき氏、海産物）

訪問日時：2018年6月29日（金） 15:30-17:00

訪問場所：アトリエ兼ご自宅

★作家プロフィール

とよだたつき氏（脚本家・構成作家・背景画家）

大学は漫研、古本屋勤務、量販店、出版社などを経て現在海産物（漫画家）

美大学卒業後アンソロジーコミック製作後漫画家として活動



著作物「文具を買うなら」PCとタブレットペンによる作画風景

★現在の職場の形態（比率や業務内容）

- ・自宅の2階を執務室として作業されている

★職場での持ち物

とよだたつき氏 PC2台（作画、業務用）プリンター（請求書発行）

海産物氏 PC1台（作画ソフト/クリップスタジオ）のみ

★海産物さんの一日

08:30 子供を両親宅に送りに行く

10:00 業務開始（朝は子供の世話）

13:00～17:00 執務

17:00～23:00 子供の迎え、家事～執務

★手書きの比重やその価値

紙で書くことは皆無（デビュー当時からソフトで作画）

漫画媒体も紙からスマホで見る時代になり縦スクロールを意識した作業を行なっている

デジタル作画はアナログに比べコピー&ペイストやアンドゥ（元に戻れる）ので効率化が進んだ反面、作画のスキル

は少し覚えれば誰でも出来る時代

★未来への考察

安価なソフトで誰でも作画は可能な時代、これからは自己プロデュースが重要。作画以外の企画、編集、売り込みなど、自身の価値を差別化し提案していかなければいけない

現在の収益はコミック売上としてあるが、将来デジタルコンテンツに変わってくると漫画業界も大きく価値観や収益の内容が変わる。将来は漫画家では無いかもしれないが、作ることにこだわりたい。

3.3 ヤフー株式会社

訪問日時：2018年6月7日（火） 15:30-17:00

訪問場所：ヤフー株式会社紀尾井町オフィス

訪問先：サービス企画系セクション 3名

★現在の職場の形態（比率や業務内容）

完全フリーアドレス制

- ・男女比は7:3、社員の65%は技術職

- ・平均35.7歳（離職率はかなり低い、復職率も高い）

コンセプトは①オープンコラボレーション、②グッドコンディション③ハッカブル

- ・PCポータルが強みの企業であったが2014年にアクセス比率をPCよりスマホが上回り、「ポータル」という概念がなくなり「スマホファースト」を掲げ、その為にワークイノベーションが必要だった（震災後に石巻復興ベースの開設をきっかけにオープンイノベーションの文化が生まれた）

★一日の流れ

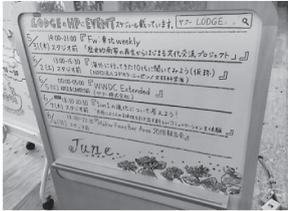
- ・朝は比較的同じグループで顔を合わせる機会も多い。位置情報システムPozeyと呼ばれるアプリで社員の居場所をトレースできる仕組みになっている。
- ・ミーティングは、チャットやグーグルドライブ、社内Wikiなどの活用で、情報共有やディスカッションを行い、時間的ロス無く極力効率的に行える。
- ・紙による出力は営業の提案書のみであり、ほとんど使う文化が存在しない。対してホワイトボードや付箋はディスカッションに頻繁に使用
- ・各ミーティングスペースの壁はホワイトボードになっていて移動用の小型ホワイトボードも様々なエリアに多く配置されている。

4. まとめ

「ペーパーレスは働き方を変えるが変わらない価値」

3事例で見られた初期デジタルネイティブ世代はペーパーレス環境を抵抗無く受け入れ、デバイスレスな働き方を実践できている。さらにデジタル化の傾向は強くなると思われるが、ホワイトボードやポストイットが共存しているように脳内ア

ウトプットの為にオフィスから書く行為がなくなる訳では無い。さらに興味深いのは Yahoo! でヒアリングが出来た女性達は業務で紙を使う頻度が少ないにも関わらず PC と一緒にクロッキー帳を持ち歩く。頭にあるアイデアをまとめるには手書きの紙とペンの方が効率的なようだ。



様々な YAHOO LODGE イベント MacBook と一緒にクロッキー帳

とよだ氏のように自己プロデュースを重んじ、Google や Yahoo! のように家庭も大切にしながら働く様子にオフィス環境の変化を大きく感じさせるが、未来はより柔軟で明るい働く場や姿があるのでは無いかと感じさせられた。

(松本 竹志)